

# かたくり



第六号

2010 年  
11 月 25 日  
福島大学  
行政政策学類  
塩谷教養演習  
編集・発行

## 遊休農地再生事業（通称「Uプロ

## ジェクト」）次のステップへ！

大変冷え込んだ日が続いています。そんな寒さにも負けずにUプロジェクトは日々、活動を重ねています。遊休農地には新たな作物が植えられ、また、遊休農地の中心には水田が造成されました。更に近隣住民の方々との共同作業や福島大学祭など、今回は内容を盛りだくさんに、皆さんへお伝えしていきたいと思います。

## ○第九回作業（九月十八日）

夏休みに入り遊休農地で作業する学生もまばらになっていましたが、九月になるとようやく学生の姿も見られるようになってきました。ちょうど、前回の共同作業で播いたソバの花が見ごろを迎えています。

久しぶりに行った農作業では、共同農地とゼミごとの農地での収穫作業と冬野菜を植え付けるための耕運を行いました。今年は例年になく猛暑が続く、その影響は農作物にもあらわれてしまいました。共同農地に植えた大豆は、一メートルほど成長して青々とした葉を茂らせているものの、全く実が入りませんでした。「ビールで枝豆」の夢ははかなく消えて、泣く泣くすべて引っこ抜くはめになりました。このほか、カボチャは十個ほど収穫できたものの、サトイモは植えた時よりも小さなイモにしかならず、農業の難しさを改めて知る結果になりました。



## ○第十回作業（十月二日）

夏休みも終わったばかりの十月二日に第十回作業が行われました。十月に入り、あんなに暑かったのが嘘のように涼しくなり作業のしやすい一日でした。

作業内容としては、まずは共同農地では大根と白菜の作付を行い、そしてゼミ農地の方で芽キャベツ、ニンジン、ネギ等を中心とする秋野菜の作付を行いました。

まずは共同農地の作業のほうですが、農家の方のサポートや、他のゼミの人たちの協力もあり、あっという間に作業が終わったように感じました。みんな農作業に慣れてきたからかも知れません。

次に、ゼミ農地野作業ですが、塩谷ゼミでは秋野菜の種や苗を植えました。想像以上に芽キャベツを植えるのに苦労しましたが、ゼミのみんなでどこに何を植えるのか楽しく決めながら作業を行いました。秋野菜の収穫が楽しみです。

今回の作業の合間に地元の方からは、りんごとなし、ぶどうの差し入れがありみんな大喜びで食べていました。ありがとうございました。今回の作業で気づいたのですが、みんなすっかり農作業をする姿が様になってきたということです。うれしい限りですね。

## ○稲刈り作業（十月七日）

秋野菜の作付も終わったばかりの十月七日に、塩谷ゼミでは尾形敬光さんのお宅で稲刈り実習が行われました。ゼミの時間を使つての作業でしたので参加人数も多く、みんなで尾形さんのお宅にお邪魔しました。

実際に作業を行ってみると、前日の雨のせいもあり地面がぬかるんでいて思った以上に大変な作業になりました。

作業は二つの班に分かれて行い、長靴を持ってきた人は実際に田んぼに入つて鎌を使つての稲刈りの実習、長靴を持ってきていなかった人は尾形さんがあらかじめ刈つておいた稲を干す作業を行いました。どちらの作業もとても大変で、これをすべて自分たちで行っている農家の方の偉大さを身をもって知ることが出来ました。

慣れない作業のせいもあり、鎌での稲刈り作業に思った以上の時間がかかりました。後半は機械を導入しての作業になり、あっという間に稲が刈り取られ、機械のすごさを全員が感じました。また、稲を束ねる作業が意外に難しく、すぐに束がほどけたりして大変でした。

作業を終えると、尾形さんの方からお茶やお菓子、なしや柿をいただきみんな喜んで食べていました。ありがとうございました。今回の稲刈り作業はとても貴重な経験になったと思います。今回の経験をこれからゼミ農地で活かすことが出来たらと思います。

## ○第十一回作業（十月十六日）

種を播いてから約二か月が経ち、いよいよ今日はソバの収穫作業です。バインダーで刈ったほうがよいという地元の方の有り難い忠告にもかかわらず、手刈りにこだわりの、二十名近い学生が一斉に鎌を持って作業に取り掛かりました。ところが、ソバの茎は柔らかく、おまけに均等に生えていないので、刈り取りまとめるのに一苦労です。途中からは、草刈り機も動員してソバを刈り取り、稲ワラで縛って、竹で組んだ「はせ」に掛けていきました。一週間ほど干してから、ソバの実を落として脱穀する予定です。

二時間ほどかけてようやくソバの収穫が終わりましたが、今度は、同じ場所に、小麦と菜の花を播くことになりました。いつものように住民の方にトラクターで耕運していただき、すっかりきれいになった農地に、一列になって、種を播いていきました。

天気にも恵まれ、今回は野外での昼食です。西崎先生や、くっ倶楽部の学生が中心になって、今朝絞めたばかりの「烏骨鶏（うこっけい）」、さまざまな野菜、すぐ近くでとってきたキノコが入った特製鍋を食べました。烏骨鶏は肉や骨まで黒くて少しグロテスクでしたが、中国では「不老不死」の食材だとか。とても美味しくいただくことができました。

## ○水田造成（十月二十三、二十四日）

十月二十三、二十四日の二日間をかけて、遊休農地のほぼ中心の場所に水田の造成が行われました。水田造成といっても、私たちの手にはおえる作業ではないため、重機を導入しての作業となりました。その間に私たちは、この前の作業で刈り終え干しておいたソバの実を棒を使って落とす作業を行いました。意外に数が多くなかなか全部落とすのに苦労しましたが、農家の方にアドバイスをいただきました。さらには、そのあと同時進行で焼いておいた焼き芋をみんなで食べました。とても甘くおいしくいただきました。

二日目には、水田をつくる場所のそばに芝をしき座って休憩できる場所の作成を行いました。早く芝が育つて





みんなで、座って何かを食べたりできたらと思います。

さらに今回遊休農地には新しく「物置」も作られることになり、より一層農作業をしやすい環境になるのではないかと思います。



## ○大学祭（十月三十、三十一日）

金谷川活性化委員会二一とアップルファイブの皆様と共同で第六十回福大祭で牛串とお餅を販売しました。当初、抽選から漏れて出店は不可能かと思われましたが、「大黒ゼミ」と「くっ俱樂部」の模擬店の一角をお借りし、出店することができました。

三十日の午前中には、学生がもち米のうるかし方を間違えるなどのハプニング発生し、かなりドタバタしました。しかしながら、アップルファイブの皆様の見事な手腕のおかげで無事、お餅をつくことができました。

お餅の味付けは、あんこ、きなこ、納豆、鶏汁の四種類を用意しました。学祭期間中は雨が降っていたこともあり、鶏汁が一番人気でした。お餅は非常に好評で、幼稚園児からお年寄りまで幅広い世代の方にお買い求めいただきました。

一方の牛串もチラシで宣伝したことが功を奏し、多くの方にご来店いただきました。お昼の時間帯には、行列ができることもありました。普段なかなか食べることでできない福島和牛ということで、学生には非常に好評でした。

両日ともに天候には恵まれましたが、牛串・お餅ともに完売することができました。今回は初めての出店ということで、多くの反省点が見受けられました。来年はその反省を糧に、より楽しい模擬店を運営したいと思います。

## ○ラブ！金谷川（第三回）



今回は、金谷川地区の農家に嫁いだ女性によって結成されたアップルファイブの尾形和子さん、加藤せつ子さん、加藤ミツ子さん、斎藤優子さん、渡辺美紀子さんの5人にお話を伺いました。アップルファイブの活動は、JAの「わかづま会」での出会いを機に、生活改善グループとしてスタートしたそうです。最近では福島大学の学生たちと活動することが多く、学生たちにレシピを教えながら一緒に料理をしたり、農作業をしたりすることが多くなっているそうです。ここ数年では、一緒にイチゴジャムを作ったり、焼き肉のタレを手作りして焼く肉をしたりと、大変お世話になっています。

こうした学生達との交流を通しての感想を聞いてみると、人と人の触れ合いで得られるものは多く、学生達の考えに触れることで自分達も成長できている、とおっしゃっていました。しかし、私達の知識や経験の少なさに驚くことも多いようで、もっと親の手伝いをしたりして、生活していくための力を身につけてほしいということでした。

最後に、私達に伝えたいこととして、「衣食住のなかで最も大切なのは食。農家での生活は大変だけれども、お金で買えない楽しみや喜びがある。若い人達にも、もっと興味を持ってほしい。」とお話してくださいました。アップルファイブのみなさんのような存在がすぐ近くにある福島大学の恵まれた環境を無駄にせず、私達ももっと積極的に農業に関わっていくべきだと思います。アップルファイブのみなさん、今回はお忙しいなかありがとうございました。



## ○金谷川地区をもっと知ろう！

### （第三回）

今月号では第三回目として、「金谷川珍百景」をテーマとした塩谷ゼミ第二班の成果をお知らせします。

私たち二班は金谷川地区にある珍百景について調べました。きっかけとしては、福島大学に入学したときに、この大学のある金谷川という地区にはなにか興味深いものがないか、また金谷川地区が誇っているものがないかを調べてみたくなったからです。これまでに、大学内にあるお地藏さんの歴史や、他の場所にはあまり見られない白ポストなど調べました。他にも調べましたが、ここですべてをお伝えすることはできないので今回は「重石」について近くにお住まいの尾形さんに伺った話をもとにお伝えしていきたいと思っています。

まず、「重石」は、松川町関谷にあり、古くから「嫁いだ女性が、働きが足りないという理由から不縁となり、里に帰る途中悔しさのあまり大きな石を重ねた」という伝説があり、嫁入りの際にはここを通らない風習が残っている」と言い伝えられています。説は他にもあり、家を出た嫁が夫のことを恋しく思い、石を重ねその上に乗り家の様子を見たというものもあります。実際に言ってみると、高さ二メートルをはるかに超え、一人の力では積み重ねることが不可能なくらいの大きさです。尾形さんによると、その石は並木から持ってきたようで距離にも石の大きさにもとても驚かされました。

尾形さんは他にも、山神について教えてくださいました。山神は、様々な部落にもありその地区の神として昔から祀られているものです。尾形さんの地区には、足尾神があり、お祝い事や不幸があつた時など参拝し、部落の支えとなっています。昔は石を持ってきたては、それを神と見なし、大事にすることで心の支えとなっていたそうです。今でもそのことを軽視することなく、粗末にせずだいにしているようです。

今回調べたことで、金谷川地区の歴史の一部分を少し学べた気がします。これをきっかけに、いろんなこと調べて深く追究していきたい金谷川についてもっと知りたいと思いました。今回話をしてくださった尾形さんはとても親切で本当に助かりました。ありがとうございました。



## お知らせ

十二月十二日（日）十五時から、行政政策学類棟二階大会議室で「そば収穫祭」を開催します。今年のプロジェクトUのメンバー以外でもかまいませんので、こちらもぜひご参加ください。

瓦版『かたくり』では、金谷川地区と大学との交流を進めるために、互いの行事やイベントを掲載していきたいと思っています。お祭り、運動会、コンサート、講演会、サークルの活動などなんでも結構ですので、情報をお知らせいただければ幸いです。また、『かたくり』に対するご意見・ご要望もぜひお寄せください。連絡先は福島大学塩谷研究室（TEL&FAX:548-8328 MAIL:shioya@ads.fukushima-u.ac.jp）です。よろしく願いいたします。なお、本号の編集は、塩谷教養演習一年生の日下香・安達拓哉・加藤麻衣・川村浩平・横沢謙太が担当しました。